
隔週刊「農業文化マガジン『電子耕』」 第 361 号

—環境・農業・食べ物など情報の交流誌—

2013.12.05(木)発行 山崎農業研究所&編集同人

<キーワード>

環境・農業・健康・食べ物などの情報提供、高齢者と若者、農村と都市の
交流ミニコミ誌。山崎農業研究所&『電子耕』編集同人が編集・発行。

<http://www.yamazaki-i.org>

*****発行部数 1081 部*****

□ 目 次 □-----

<巻頭言>

特定秘密保護法は時代錯誤——情報公開こそが国民の利益を守る 益永八尋

<投稿> 襲いくる怪しげな黒雲の正体をしっかり見抜きましょう 塩谷哲夫

<山崎農業研究所 第 146 回定例(現地)研究会 速報(要旨)>

テーマ: 里山再生と食の安全—放射能汚染と戦う原木しいたけ栽培—

<お知らせ> 山崎農業研究所所報『耕 No.131』発行されました

<編集後記> 「公聴会」の「公」とは何か

<巻頭言> 特定秘密保護法は時代錯誤——情報公開こそが国民の利益を守る

■世界史的な潮流に逆行する前時代的な考え方

世の中にはある情報を秘密にしたがる人間とそれ以外の人間がいる。秘密を持っていれば、自分が優位に立っていると考える人間がそれである。これは国についてもあてはまる。だが本当に、「秘密」を守れば国益(=国家安全保障等)は守れるのか。秘密裏に行われる TPP 交渉では国民の利益が守れない事態になりつつあることが明らかになってきている。

国益は多数の国民がさまざまな情報を共有することで守れるというのが時代の流れである。「秘密」を持つという考え方は前時代的な考え方である。知る権利、幸福追求の権利など現在の憲法が保障している諸権利に反する考えだけでなく、世界史的な潮流にも逆行する。秘密をなくすことによってこそ国民の利益は守れる。

■情報の公開・共有が日本の技術的優位性を作り上げた

戦後日本の経済成長と技術的優位性は技術情報の公開(共有)によって得たものである。技術情報の公開により、公開された技術情報を基礎にしながら、新たな技術を獲得してきた。もし、企業秘密や国家機密という法が公的研究機

関(大学・国・自治体の研究機関)に適用されていたならば、新しい技術や研究は決して生まれはしなかつたらう。

技術的優位性を持続させるためには、情報の公開(技術分野も含めて)すなわち共有によって、今ある技術の欠点や将来の発展方向を見つけ出すことが重要だ。一部の技術者や研究者だけの能力で技術力が向上していると考えるのは時代遅れの考え方と言わざるをえない。今日の多くの有用な技術は、多数の技術者、研究者のたゆまない努力と共同によるものが圧倒的に多い。

■職場環境悪化への懸念

特定秘密保護法が審議を十分に尽くされないまま衆議院を通過し、参議院で審議が行われることになったが、参議院でも数の力で十分な審議をしないまま法案の強行採決が今週中にも行われる危険性が極めて高い状況にある。

特定秘密保護法案の危険性は、いろいろ出されているので、ここでは示さない。この法案が修正されないまま施行された場合、どのような状況になるのかを考えてみる。特定秘密に関わる職場はきわめてギクシャクした職場になり、さまざまな議論がスムーズに行われなくなるだろう。職場内では自由にものが言えない環境が支配的になり、職場内の人間関係までおかしくするだけでなく、ストレスを助長させるのではないか。こうした職場では通常の業務遂行にも支障がでる危険性があるだろう。

益永八尋

山崎農業研究所幹事

yamazaki@yamazaki-i.org

<投稿> 襲いくる怪しげな黒雲の正体をしっかり見抜きましょう

不気味な黒い雲がこの国を覆おうとしている気配が感じられます。気になることはいくつもあるのですが、そのひとつについて発言します。それは、実教出版の『高校日本史 A』と『B』の記載に問題があるとして、東京都、大阪府、神奈川県教育委員会が、同書を採択した学校に変更を求めたことです。

国旗・国家法は国旗掲揚、国歌斉唱を強制するものではないと政府が国会で言明しています。この教科書が「しかし、一部の自治体で公務員への強制のうごきがある」(「側注」に)と書いたことを理由にして、上記の教育委員会は

クレームをつけたのです。これは客観的事実を記載したに過ぎませんし、この教科書は文科省の「検定」をクリアしているのです。それなのに、この教科書を採択してはいけないと言うのです。

私は、その背景には、安倍政権の憲法を「改悪」し、日本を戦争のできる国家に「改造」しようという企みの一環としての「教育改革」の動きがあるのではないかと思いました(10月4日付けの『電子耕』No.358, 『はだしのゲン』を参照してください)。

問題となった実教出版社の日本史教科書を取り寄せてみました。開いたとたん“あっ”と驚きました。学校の体育祭の企画を考えることになった生徒たちが、仲間や先生と“会話”しながら、自分の学校の運動会の歴史を調べるところから始まっているのです。イラストもあれば、昔の様子を撮った写真などがふんだんに取り入れられています。私が教わった頃の文字と年号であふれた面倒くさそうな教科書とはまったく様変わりしていて、これなら、次はどうなるのだろうとおもいながら、楽しく学べそうだと思いました。

本論に入ると、冒頭で、世界的な歴史の進行のなかで、特に中国・韓国・琉球・アジアの国々と交流しながら歩みを進めてきた日本の姿が紹介されています。日本はアジア大陸側から見て、地図の上方に横たわった姿で描かれています。見たことのない地図ですが、たしかにこのほうがアジア地域の国際関係を理解しやすいです。

続いて、今日の日本が作り上げられてきた「近代化」の過程が、前の事態が後の事態につながる因果関係を持って動的に展開してきたものであることを、“なるほど”と納得しながら学べるように編集されています。そして、歴史を動かす背景には、権力と民衆とのせめぎ合いがあったことを、『歴史のまど』となる出来事や、世の中の流れを変える大事な役割を果たした人物(“大物”ではなく)を紹介しながら生徒達に考えさせようとしています。彼らがこれからの歴史を作ってゆく主人公になるのですから、これは大事な観点です。

教科書の最後の項では、長野県の高校生たちが地域の歴史を学ぶフィールド学習として、自分達で企画して「松代大本営」を調査し、その取り組みを通じて、戦争をしない日本、平和な世界をつくる思いを強くするという実話を紹介しています。そして、「歴史を調べ、歴史に学び、未来をきずこう」という呼びかけで締めくくっています。

安倍自民党政権は、生徒の自発的な成長をよく考えてつくられた教科書から歴史の教えを学んで、自らの想いで、仲間と力を合わせて、未来を切り拓くことのできる“すばらしい”子供たちが育っていくことが怖いのではないのでしょうか。彼らは、国民に本当のことが知られないように、今、ファッショ的に「“特定”秘密保護法」の制定を強行しようとしています。こんな暴挙を許すわけには行きません。

私たちは、襲い来る黒雲を取り払って、お日様の輝く日本を、こども達に引き継いでゆけるように力を合わせてゆきましょう。

塩谷哲夫
山崎農業研究所幹事
yamazaki@yamazaki-i.org

<山崎農業研究所 第 146 回定例(現地)研究会 速報(要旨)>

テーマ: 里山再生と食の安全—放射能汚染と戦う原木しいたけ栽培—
期 日: 2013 年 11 月 16 日(土)
場 所: 「なかのきのこ園」 茨城県つくば市谷田部
(代表取締役: 飯泉孝司氏)

「なかのきのこ園」は筑波山麓の麓にあつて、原木しいたけ栽培、本物にこだわること 40 年、原木本数とシイタケ生産量は日本一と言われてきた。しかし福島での 3.11 原発事故は里山を汚染し福島からの原木供給を受けていたなかのきのこ園は原木の入手が不能になった。放射能との戦いが続くなかで自然・農・食の本来の姿を求め、これを原木栽培を里山の森林の若返りに結びつけ、里山と原木きのこ再生に取り組んでいる。「なかのきのこ園」代表、飯泉孝司さんの進めている「里山の再生と食の安全を考える会」はその信念の現れである。

福島原発事故以来、地元および西日本の放射能汚染のないところから原木を取り寄せている。しかしコストは高い。原木のセシウム放射性セシウム濃度の指標値は 50(ベクレル/kg: 乾燥重量)に規制されている。原木を高圧水で洗浄するが、キノコはセシウムを成長の過程で濃縮するから出荷時には原木の放射性セシウム濃度よりも高い値になる(基準値: 一般食品で 100 ベクレル/kg)。

洗浄効果は思うほど期待できないので、原木に規制値よりも厳しい安全指標値を適応している。しかし、なお若干の基準値以上のセシウム検出もあるので、その除去に苦慮している。

キノコ生産には、原木に菌子を植え、低温の水に浸水させた後に、最適の湿度と温度に保った「芽だし室」で発芽させる。1週間経つと収穫できる。収穫後の原木は養生フレーム室で1~2ヶ月間休ませた後、再び冷水につけて刺激を与え、次の栽培のための発芽を促す。このような原木のサイクル管理で、1年間に5回程度の収穫をくり返す。この後、原木はオガクズ、チップに砕かれて、マイタケなどの栽培に利用される。室内暖房の燃料にもなるが環境面から制約されている。

見学後に話し合いを行った。事故発生で汚染された原木は全体の80%を占め、すべて廃棄したが、大損害を受けた。東電と交渉するなど、一応解決したが、原木の洗浄に苦闘している。汚染対策の苦労に比べると害虫被害などは問題にならない。茨城県では農産物出荷停止の多くはすでに解除されたが、シイタケは残されている。森林が汚染されているからである。このまま里山の現状を放置しておけば、今後は原木すら供給不能になる。地域と連携を保ちながら、シイタケ栽培を全国規模で里山保全運動に結びつけることが今後の課題となろう。この運動を多くの人に伝え、協力して貰えるように山崎農研、われわれも努力したい。

(文責:安富、益永、田口)

<お知らせ> 山崎農業研究所所報『耕 No.131』発行されました

山崎農業研究所所報『耕 No.130』が発行されました。
ご希望の方には雑誌を頒布(有料:1,000円)いたします。
yamazaki@yamazaki-i.org
までご連絡ください。

《土と太陽と》(巻頭言)

こうしてこの「くに」は変わるのか— TPP 交渉の行方◎小泉浩郎

第37回山崎記念農業賞贈呈式(長野県辰野町・倉澤久人)

[選考委員報告]◎田口 均

〔山崎記念農業賞を受賞して〕◎倉澤久人

〔お祝いの言葉〕◎月岡道孝

総会記念講演：電力需要に応える再生可能エネルギー

I ローカルエネルギーの現状と展望◎渡邊 博

II 小水力発電の現状と課題◎新谷和夫

〔第 145 回定例研究会〕TPP 交渉参加を問う——選択肢は TPP だけか？

I TPP 反対運動について——米韓 FTA から何を学ぶか◎金 哲洙

II ラテンアメリカの「より良く生きる

(vivre bien) 運動」に学ぶ◎吉田太郎

特別寄稿：TPP 問題へのもうひとつの視座

・日本とアジア諸国が進むべきはアメリカ式の

「通商国家」への道ではない◎中島紀一

・ナショナルな価値と在所の価値との断絶、

原理主義の希望◎宇根 豊

〈TPP 参加交渉に思う〉

TPP は農村を元気にするか * 寒河江 巖／振り上げた拳はどこへ * 大河原幸一／
息苦しい未来への心配 * 多田 敦／酪農・乳業での経済一体化の方向への新たな
方策 * 石川秀勇／ぶれない農の営みを続けたい * 北村 誠

〈随感〉2011.3.11 東京に一番近い原発・東海第二で

何があったのか...／塩谷哲夫

<編集後記> 「公聴会」の「公」とは何か

12/04 わたしの暮らす埼玉県さいたま市で、特定機密保護法案に関する地方公聴会が開かれた。しかしそれはずさんなもので、そもそも開催が決められたのが公聴会前日、意見陳述人も同日夜に決まったという。

そもそもどこで開かれるのかがよくわからなかった。ネットで情報を集めてみると、議員に連絡をとってようやく開催場所を知った人もいるそうだ。傍聴したくとも政党の紹介がなければ会場に入ることすらできなかったという。

「公聴会」と「公」といっておきながら、このおそまつさ・やる気のなさ。そこにおおい怒りを感じてならない。その一方で、自民党の石破幹事長がデモについて、テロ行為と本質的に変わらないとブログに書き込み、大批判をあびている。

両者に共通するのは、言葉の、理念の、そして現実の恣意的解釈である。とすれば、「特定秘密」も恣意的なものになる危険性がある、と言われても仕方がないのではないか。

内容といい、決め方といい、この法案には無理がありすぎる。

2013年12月05日

山崎農業研究所会員・田口 均

yamazaki@yamazaki-i.org

山崎農業研究所編・発行／農山漁村文化協会発売

『自給再考——グローバリゼーションの次は何か』

(発売:2008/11 定価:1,575円)

http://shop.ruralnet.or.jp/b_no=01_4540082955/

たくさんの書評・紹介記事をいただいています。感謝・感謝です。

◎辻信一さん(文化人類学者、ナマケモノ倶楽部世話人。明治学院大学教授)

グローバルの次は何? ~卒業するゼミ生諸君へ

<http://www.sloth.gr.jp/tsujij/library/column64.html>

◎戒谷徹也さん(大地を守る会)

ブログ:大地を守る会のエビちゃん日記 “あんしんはしんどい”

「自給率」の前に、「自給」の意味を

<http://www.daichi.or.jp/blog/ebichan/2008/12/16/>

◎吉田太郎さん(長野県農業大学校教授、執筆者)

キューバ有機農業ブログ 自給再考の本が出ました

http://pub.ne.jp/cubaorganic/?entry_id=1822182

◎関良基さん(拓殖大学政経学部)

ブログ:代替案 書評:『自給再考 —グローバリゼーションの次は何か』

<http://blog.goo.ne.jp/reforestation/e/cb22650fa39384bdd22b61440fa81fa0>

- ◎大内正伸さん(イラストレーター・ライター)
ブログ: 神流アトリエ日記(3)「書評『自給再考』」
<http://sun.ap.teacup.com/applet/tamarin/20081204/archive>
- ◎ブログ: 本に溺れたい グローバリゼーションの次は何か
<http://renging.cocolog-nifty.com/bookjunkie/2009/01/post-841e.html>
- ◎森川辰夫さん
NPO 法人 農と人とくらし研究センター／資料情報
<http://www.rircl.jp/shiryo.htm>
- ◎日本農業新聞／書評
(2009/01/19 評者: 日本農業新聞編集委員 山田優)
<http://yamazaki-i.org/>
(画面トップの「書評はこちらから」よりアクセス下さい)
- ◎小谷敏さん(大妻女子大学)
日本海新聞コラム「潮流」／「自給」の方へ(2009/01/31)
<http://blog.goo.ne.jp/binbin1956/e/c895f6619b30ba7725e264b4daa75219>
- ◎白崎一裕さん((株)共に生きるために)
月刊とちぎ V ネットボランティア情報 vol.158／しみん文庫
<http://yamazaki-i.org/>
(画面トップの「書評はこちらから」よりアクセス下さい)
- ◎塩見直紀さん(半農半X 研究所、執筆者)
ブログ: 半農半Xという生き方～スローレボリューションでいこう！
立国集。
<http://plaza.rakuten.co.jp/simpleandmission/diary/200812270000/>

◎お願い「<読者の声>の投稿規定・メールの書き方」

- 1、件名(見出し)を必ず書いて下さい。「はじめまして」は省略して、言いたいことを具体的に。
 - 2、氏名・ハンドルネームは、文末ではなく始めのほうに。
 - 3、1回1テーマ、10行位に。
 - 4、ホームページを持っている人は、文末に URL を。
 - 5、JIS X0208 規格外の文字(機種依存文字)のチェックを。
<http://www.chem.sci.osaka-u.ac.jp/networks/check/jisx0208.html>
- インターネットで使えない丸数字や半角カタカナ、括弧入り略号などは文字化けの原因です。

次回 362 号の締め切りは 12 月 16 日、発行は 12 月 19 日の予定です。

<本誌記事の無断転載を禁じます>

隔週刊「農業文化マガジン『電子耕』」 第 361 号

最新号・バックナンバーの閲覧

<http://archive.mag2.com/0000014872/index.html>

<http://nazuna.com/tom/denshico.html>

購読申し込み／解除案内

<http://www.yamazaki-i.org>

2013.12.06(木)発行 山崎農業研究所&編集同人

mailto:yamazaki@yamazaki-i.org

*****ここまで『電子耕』*****